

2025年3月4日

各位

株式会社アイ・エス・ビー
代表取締役社長 若尾 一史

取締役会の実効性に関する評価結果の概要について

この度、当社取締役会は、取締役会の実効性を高め企業価値の向上を図ることを目的として、2024年12月期における取締役会の実効性について分析・評価を行いました。その概要を下記のとおり開示いたします。

今後、取締役会では、下記の分析・評価を踏まえて、具体的な対応策の策定とその実行を進めてまいります。

記

1. 分析・評価の方法

(1) 取締役会の実効性について、全ての取締役・監査等委員に対しアンケートを実施しました。

【質問内容】：2024年12月期における当社取締役会の実効性について（14項目）

- 取締役会における議論等の有効性
- 取締役会におけるプロセスやマネジメントの有効性
- 取締役会における構成、スキル・経験、独立性等

【回答方法】：点数評価および自由回答

【回答方式】：無記名方式

(2) 回答の集計結果につき、取締役と常勤監査等委員との間で意見交換を行い、報告書を取り纏めました。この報告書を参考とし、取締役会において、取締役会の実効性に関する分析・評価を行いました。

2. 分析・評価結果の概要

(1) 取締役会は、以下の点について、取締役会の実効性が十分に確保できていると評価しました。

- 取締役会での議案の審議に十分な時間をかけており、概ね慎重な意思決定がなされている。
- 社内取締役のみの会議体にて事前協議が行われており、議案内容の明確化や情報の精査が行われた状況で取締役会に上程されている。
- 社外取締役に対して、重要議案に関しては事前説明がされており、意見を反映した形で取締役会の審議が行われている。
- 社外取締役はそれぞれの専門的見地から積極的に意見を述べるなど、活発かつ建設的な

議論が行われている。

(2) 一方で、主に以下の事項について、取締役会で引き続き議論を重ね、更なる改善に取り組んでいくことといたしました。

- 社外取締役に対する、関連資料の事前閲覧環境に関して改善はされたが、資料をより早期に提供するための改善の継続は求められる。
- 重要議案に対して、社外取締役の専門的知見の活用などにより慎重な意思決定を行うとともに、社内取締役から事前協議の内容や議案に対する意向の共有をさらに積極的に行い、活発かつ建設的な議論を促し、取締役会での審議の充実を図る。
- 多様性の確保の更なる推進に取り組み、国際競争を勝ち抜く成長基盤の確立のための多様な視点や価値観が取り込まれる環境の醸成を図る。

以上